

東日本大震災発生時・ テレビは何を伝えたか（2）

メディア研究部 番組研究グループ

前回に引き続き、東日本大震災の発生以降、テレビが視聴者に何を伝えたのかを報告する。5月号では地震発生の瞬間から約2時間のテレビ報道について記述したが、今号ではその直後、3月11日（金）の午後5時以降について、NHK総合と在京民放キー局の放送内容をまとめた。また、今回の「複合災害」の重要な要素のひとつである原発報道の動きについては章を分けてまとめた。

本稿では、その時テレビに映った内容をできる限りそのまま記述することに留めた。視聴者によるテレビ報道の受け止め方など、分析を伴う調査・研究については稿をあらためて報告する。

1. 震災報道の流れ

【震災発生当日・午後5時以降深夜0時まで】

～加わる複合的要素、刻々増える断片的被害情報、
しかし、なおも見えない全体概要～

地震が発生した午後2時46分から約2時間、各局はあまりにも広範囲に及ぶ被害の全

貌を把握しきれなまま、大津波の猛威をとらえた衝撃的映像を流しながら、次第に集まつくる情報を伝えていった。

午後5時以降の放送内容では、以下の2点が加わったことが大きな特徴と言える。

第一は、首都圏での大規模な交通障害による多数の「帰宅困難者」の発生である。夕方になるとにつれ、官房長官記者会見による帰宅自制の呼びかけ、随時挿入されるターミナル駅や幹線道路の多数の人々の映像などによってクローズアップされたこのトピックは、次第に取り上げられる時間が増加した。特に、在京民放局の一部は、日中から続く東北県域局とのリレーを継続しつつも、帰宅困難者の一時受け入れ施設の具体名紹介や鉄道運行再開情報など、関東ローカル情報にも時間を割き始めることがある。

第二は、夜7時40分の官房長官の会見で「原子力緊急事態宣言」が発せられたことを機に、今回の災害が「地震・津波」だけでなく、原子力発電所の深刻な事故を伴う「複合災害」であることが見え始めたことである。

報道の形式は、各局ともほぼ共通していた。

スタジオでの情報整理、識者・記者による解説・視聴者への呼びかけ、被災映像の再生、そして生中継は、官邸、気象庁、へり、都内ターミナル駅などから継続的に行われた。東北の被災地・避難所からの中継はこの時点では少数であった。

夜になると、新撮映像が、夜でも視認できる火災の映像と、車の大渋滞、街灯の下を歩く「帰宅難民」等に限られ始めたこともあり、それまでの取材映像をパッケージにまとめたVTRのリピートが増えていく。

主な被災地である東北太平洋岸で交通や通信手段が遮断されていたこともあって、各局とも最も深刻な被災エリアの直接的な情報をつかみにくくなっていたり、最初の地震から9時間が経過してもなお、災害の全貌をテレビ報道は伝えることができていなかった。

夜11時過ぎに自衛隊から提供された、気仙沼市街地一帯が火の海となった大火災の映像を各局とも長時間にわたって放送したが、この時点では地域の特定も消火活動の状況も延焼の原因も伝えられることはなかった。

深夜になっても、最も深刻な被害として数量的な情報を伴って報道されていたのは、「仙台市荒浜地区で警察が200～300人の遺体を発見したらしい」というものくらいであった。「衝撃的な映像」と「断片的な深刻な情報」から全体の被害の甚大さを推し量る形でしか報道ができない、という状況は、この日のうちには初動2時間とさほど変わらなかった。

このような中で、各局はそれぞれ以下のような対応を行った。

NHK総合

NHKは、民放に比べると東京のスタジオからの情報発信に多くの時間を割き、発生直後から一貫して、原稿による情報の整理や余震・津波に関する情報提供・避難の呼びかけに重点をおいた報道を行った。

また、民放と比べて東北各局のスタジオと結ぶ形の放送時間が少なかった反面、被災地の役場と直接結んでの電話による音声中継を随時挿入していた。

日本テレビ

日本テレビは、午後5時から「ニュース every 特別版」として、平時の夕方ニュースのキャスターがメインを務めた。被災者への呼びかけを積極的に行い、その内容は、避難所での寒さをしのぐ過ごし方や帰宅困難者への注意事項など、早くから今回の事故の「複合的側面」に目配りしたもののが多かった。他局に比べて帰宅困難者に関する情報が比較的多く放送された。

また、民放各局にほぼ共通するが、日没以降は一貫して東北県域民放局のスタジオと結ぶ形式を多用し、ほぼ1時間に1～2回の割合で宮城・岩手・福島のスタジオとつなぎ、VTR・中継を含め、現地からの情報を伝えた。

TBS

TBSは夕方のニュース番組「Nスタ」のスタジオをベースに、地震・津波情報を伝えたが、メインスタジオとは別に、ニュースセンターに別のアナウンサーが1名常時張り付き、最新の情報はそこから伝えることを基本の形にしていた。

この結果、メインスタジオは全体の流れの調整、解説、およびローカル各局とのつなぎ役としての機能にある程度特化して情報整理

を行った。その分、視聴者へ「呼びかける」タイプの情報提供は比較的少なかった。

フジテレビ

フジテレビでは、前の時間帯から引き続き、報道フロアの一角にセットを設け、安藤キャスターが全体の仕切り役を務めた。

他局と比べて、解説や報告の際にも中継やVTRの映像を早め長めにかぶせていく傾向があり、現場の映像を優先して織り込んでいく姿勢が見られた。

テレビ朝日

テレビ朝日では、夜7時からは「報道ステーション」の古館キャスターがメインで情報を取り仕切った。報道開始直後から、情報提供に加え、余震・津波への警戒の呼びかけが随時行われた。

比較的早くから、自衛隊の動きに関する情報を伝えていたことが独自の特徴としてあげられる。

テレビ東京

テレビ東京は、スタジオでのアナウンサーによる進行と社員の気象予報士による解説、さらに報道フロアを設け各地の被害情報を担当アナウンサーが繰り返し伝えた。

映像的には、VTRを中心であり、地方局の参加は系列のテレビ北海道のみで、最も被害が大きかった東北の映像は少なかった。その一方で、他局はこの日に全く伝えることがなかった株や為替、企業の動きなど経済関係の情報を多く伝え、海外報道の動向を伝えるニューヨークからの中継も経済情報にからめて他局に先駆けて行われた。

【震災発生翌日・午前0時以降6時まで】

～情報不足のまま迎えた深夜、

事態をより複雑にした未明の長野地震～

午前0時をまわると新しい情報が極端に少くなり、地震と津波に関しては、各局とも延焼が続く火災の映像と、11日の被害のまとめVTRを繰り返すことになる。

一方、都内で本来の終電時刻が迫るなかで、電車が動かず自宅に帰れない帰宅難民のニュースを重点的に流し始め、交通情報や天気予報などの生活情報に番組の比重は移っていく。特に12日は国公立大学の後期日程の試験が行われる予定日だったため、幅広い範囲にわたる交通情報が伝えられた。

また、原子力緊急事態宣言に伴って福島第一原発から半径3キロ以内の住民に避難する指示を出したとの枝野官房長官の会見内容が繰り返し伝えられ、また、アメリカを始め世界各国や国連から支援の申し出があったという情報が入り、今回の震災が国際的にも大きく注目される規模のものであることが伝わってくるようになる。

東北被災地の新たな情報は明け方までほとんど入ることがなく、午前2時台になると被災者の氏名が少しずつ伝えられ始めるものの、まとめVTRのリピート、安否情報、官邸中継が中心となっていく。

ところが、午前3時台に入ると新たな地震の発生で状況が一変する。3時11分に茨城、千葉に緊急地震速報が出るとスタジオは騒然となり、その地震の解説をしているところにまた3時59分に長野県北部に緊急地震速報が出る。この時点では、前日以来の被災状況を振り返る報道が中心になっていたが、最大震度6強という規模で続発する新たな地震に再び

追われる展開になっていく。この動きは午前4時台になんでも続き、4時32分の関東、東北、伊豆諸島、新潟、北陸、甲信、静岡の緊急地震速報へつながっていく。

このような中で、フジテレビは深夜帯でも日中からの報道スタイルをあまり変えない放送を続け、度重なる地震警報で途切れがちになった枝野官房長官の会見など地震以外の情報についても、その都度要点をスタジオで整理していた。

さらに午前5時台には13分にまた緊急地震速報が新潟、長野で出された。連続した地震が予想外の地域で起こったため、当初はスタジオに緊張が走ったが、このころには次第に各局とも落ち着いた対応になっていく。

やがて始発電車の時間が近づいてきたことあって、首都圏の駅からの中継や震災被害のまとめに比重を移していく。ただ、この時点でもまだ、死者の数は局によって170人ほどから700人とばらつきを見せ、災害の全貌がつかめたと言うにはほど遠い状況だった。

【震災発生翌日・午前6時以降】

～次第に明らかになる壊滅的被害、救助活動が進む一方で深刻化する原発事故～

夜明けを迎えた午前6時以降、各局は被災地の上空からの映像取材を開始する。

NHKが福島県相馬市の上空からの中継を行ったのに続いて、フジテレビ、TBSが福島県南相馬市上空から中継を放送、テレビ朝日が仙台市上空からの中継を相次いで放送した。それによって、被害が想像以上に広範囲で、木造家屋等が跡形もなく流失し、三陸海岸全域が壊滅的な状態になっていることが明らかに

なった。東北地方沿岸では幹線道路が使用できず、通信手段もほとんど遮断されていたことから、上空からの映像で被害の全体状況を推し量っていくという「手探り」の状態で各局の放送が行われた。

午前7時台には、NHKが宮城県南三陸町の上空から校庭に《SOS》と書かれた文字を映し出し、フジテレビでは宮城県亘理町の阿武隈川の橋の上から救助を求めて手を振る人の姿をとらえた。続いてテレビ朝日でも宮城県岩沼市の南浜中央病院屋上に書かれた《HELP》《食料》という文字を映し出した。こうした上空からの映像により孤立している人への救助が急がれることが明らかになってくる。

NHKと民放の空撮には特徴の違いが見られた。NHKは、東大地震研究所・都司准教授と被災地の地形や地理に詳しい記者・解説委員によって、比較的高い上空から見た地形の変化や流された住宅の状態から津波が陸地のどの程度の規模まで達したか、どの程度の範囲で被害が発生しているかの検証を中心に行った。多くの地域で2階の天井まで津波が襲っていること、地盤沈下が起きており住宅地から水が引かない可能性があることなど、被害の状況検証が空撮映像をもとにして行われた。

一方、民放の空撮では、全体状況の把握よりも個別の救助活動に重点が置かれ、孤立している住民の発見を中継担当者に促したり、孤立者の人数や建物の周辺状況を具体的に報告させたりといった形での中継が行われていた。

また、救助ヘリの救出活動を長時間にわたって空撮で中継するという場面も見られた。特に日本テレビでは午後3時台に、気仙沼のビル屋上に取り残された被災者の自衛隊ヘリによる救

出劇を約30分にわたって中継し続けた。

またこのころから、陸路で現地へと入る取材陣もその数を増し、続々と中継を開始している。甚大な被害が伝えられていた、岩手県大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市、石巻市、仙台市若林区、福島県南相馬市などから中継が行われた。ただし、大津波警報がなお発令中で、道路が寸断され移動が困難であることから、中継は高台や避難所、自治体庁舎前から行われて、映像はおおむね定点的、固定的なものとなっている。

この制約のため、各局ともほとんどがアナウンサーや記者が近くの住民に取材して集めた情報を伝えているが、TBSは近くに避難している住民に実際に出演してもらう時間を早くから多めにとっていた。岩手県陸前高田市では、高台に避難している女性にインタビューし、津波襲来の様子やライフラインの寸断により家族と連絡がとれていない状況を語ってもらった。また宮城県亘理町の避難所内からの中継では、食料や毛布、衣服、紙おむつ、糖尿病の人の食事やトイレの処理をするための薬剤、発電機などの物資が欲しいという被災地からの生の声を伝えている。

一方、震災当日、たまたま番組の取材に沿岸部を訪れて津波に遭遇したクルーによる報告や、中継とは別に現地入りしたVTRの取材チームによる報告も増え始め、各局それぞれ、より深い被災地に踏み込んでの取材映像が次第に放送されるようになっていく。

このように、ほぼ共通したフォーマットで報道がなされていた前日に比べ、2日目以降は次第に各局の独自取材が進み、公式発表では見えなかった被害の実態が次々と明らかにされていった。

その反面、地震発生から24時間の時点での死者と行方不明者は1,400人を超えると報じられるものの、依然被害の全貌はわからないことが伝えられ、壊滅的な被害を受けたと思われる大槌町や南三陸町の情報は未だ空撮以外に得られておらず、この時間帯になってもなお手探り状態の報道が続いた。

さらに12日の未明に震度6強の地震に襲われた長野県と新潟県の被害状況についての情報も加わる中で、原子力発電所の事故の影響による避難区域が拡大されていく事態となり、その上「計画停電」実施の可能性が東京電力から伝えられるに至って、テレビ報道の内容は、東北地方の被害情報の報道を中心としつつも、新たな懸念を「進行形」で増やしながら、ますます多様で広域性の強いものになっていた。

在京テレビ局全てが報道特番を続けるこの状態は、12日夜11時55分にテレビ東京が、各局に先がけて定時のアニメ番組を放送するまで続していくことになる。

2. 原発事故発生とテレビ報道

本稿執筆の時点で震災発生から1か月余りが経過しているが、福島第一原発ではなお事故収束の目処が立たない深刻な状態が続いている。放射性物質の大量放出を引き起こした「炉心溶融」や「水素爆発」は、いずれも震災発生から数日の間に連続して起きた。事故発生直後の東京電力および政府の対応や情報提供のあり方は今後も繰り返し議論や検証の対象となるだろう。ここでは、事故発生から翌日までの間、テレビが原発事故をどのように伝えたのか、NHK総合の放送録画をもとに簡単に

記録・整理しておくことにしたい。

経済産業省の原子力安全・保安院（以下、保安院と表記）の資料によれば、福島第一原発における「全交流電源喪失」という最初の異常事態が国に伝えられた（10条通報）のは、地震発生から約1時間後の午後3時42分だった。それをNHKが「冷却用の非常用ディーゼル発電機の一部が使えなくなった」という表現で伝えたのは、さらに1時間後の午後4時47分である。これが、テレビでは最も早い一報だった。当時はまだ津波のすさまじい被害の実態が次々と明らかになっていた時期で、各局の関心は高くない。それが変わるのは夜になってからである。

枝野官房長官が夜7時台の会見で「原子力緊急事態」を伝え、さらに夜9時台の会見で「半径3キロ以内の住民は避難、3～10キロの住民は屋内退避」との指示を明らかにする。特に9時台の会見は、NHKだけでなく全ての在京キー局によって中継された。

翌12日からは、1～4号機で危機が連鎖する局面に入っていく。午前2時、1号機格納容器内の圧力上昇と、それを抑制するための排気（以下、ベント）の計画が、速報テロップとともに伝えられた。放出される放射性物質は微量で安全だとする政府や東電の見解も繰り返し伝えられていく。夜間は科学・文化部の山崎淑行記者、早朝5時台からは東大大学院の関村直人教授も加わって技術面の解説がなされた。関村教授は「原子炉の中にある燃料は十分に水の中に入っているので破損しているということではない」として、この時点ではまだ楽観的な見通しを述べている（事故発生後数日のあいだNHK総合で「原子力の専門家」としてコメントをしたのは関村氏だけだった）。

NHK内部からは、13日早朝から水野倫之解説委員が加わった）。

午前6時すぎ、菅首相の現地視察出発のニュースのあとで状況は急変する。電源が確保できずベントの目処がたたない。1号機の中央制御室で放射線の値が上昇し、避難指示の範囲が半径10キロに拡大された……次々と情報が入り、同53分には「1号機からは微量ながら放射線が漏れ始めているとみられる」という保安院の見解が報じられた。1号機でようやくベントの作業が始まったと伝えられたのが午前9時22分。しかし、作業は難航していた。原子炉内では水位が下がって午前11時20分には燃料棒が最大90cm露出し（12時12分。カッコ内はNHKでの放送時刻）、さらに1号機の周辺でセシウムが検出されて「炉心にある核燃料の一部が溶け出た」との保安院の見解が速報テロップとともに報じられた（午後2時16分）。

午後3時24分、保安院は会見を開き、格納容器の圧力が急激に下がってベントがひとまず成功したことを伝えた。だが、30分もたたないうちに事態は暗転する。「午後4時頃、1号機のあたりで爆発音が聞こえたあと煙のようなものが見えた」という目撃情報が伝えられたのが午後4時52分。確実な情報や現場の映像が入らない中で、スタジオは次第に緊張に包まれていく（爆発音のニュースは、各局でもほぼ同じ時間帯に報じられた）。その中で日本テレビは、系列局の福島中央テレビがとらえた午後3時36分の爆発の瞬間の映像を放送した。この映像は世界のメディアを駆けめぐった）。

午後5時台に入るとNHKは、上空から撮影した爆発後の1号機建屋の映像を、爆発前のものと比較しながら解説を試みた。山崎記

者は早い段階で「水素爆発」の可能性に言及していたが、詳細は不明であるとして、「もし原子炉が爆発したとすると、放射性物質が大量に放出されている可能性があるので、外出せずに窓や換気扇を閉めて欲しい」といった注意の呼びかけを繰り返し行った。原発周辺の現在の風向きや今後の予想も報じられた。しかし、保安院等からの具体的な情報は一向に入らない。こうした発表の遅れに対して山崎記者が「こういう重大な事象につながる情報を我々も入手できていなかった。原子力安全・保安院と東京電力の情報の出し方が非常に重要な局面に来ている。これは徹底的に糾弾されねばならないべきだし、しっかりと必要な情報を住民やメディアに提供していただきたい」と厳しく指摘する場面もあった。慎重な言い回しの関村教授も「いま、我々は最悪の事態を想定して対処をしていかなくてはいけない。そういう事態になっている可能性が十分ある」と踏み込んでいる。

爆発から約2時間後の枝野官房長官の会見（午後5時47分）は「何らかの爆発的事象があった。原子炉とは確認されていない」。その直後の保安院の会見も「映像を見る限りの情報しかない」。その後、避難区域が半径20キロ圏まで拡大される。夜7時37分にNHKは、今回の事故が国内初の炉心溶融事故であり、米スリーマイル島事故と同じ事態が起きていることをあらためて伝えた。そして最終的に枝野官房長官が会見を開き、事故の詳細を発表したのは夜8時41分。水素が原因の爆発であり、原子炉を囲む格納容器までは破損していないという結論だった。この時点で、爆発発生からすでに5時間が経過していた。

震災の翌日に起きたこの一連の経過は、今

回の原発事故報道の特質を凝縮しているように思われる。取材者が現場に近づくことができず、東京電力や保安院からの「情報」に依存せざるを得なかつたという点である。翌日以降も、3号機の炉心溶融（13日）と爆発（14日）、2号機の格納容器の損傷と4号機の火災（15日）と事態は悪化の一途をたどるが、新たな情報が記者会見で初めて明らかになるケースが常態化していった。しかも、東電、保安院、総理官邸でそれぞれ会見が開かれ、内容に齟齬がある場合も見られた。情報を思うように把握できない記者たちが会見担当者に苛立ちをぶつける様子がそのまま中継されたこともある。震災や津波の報道においてテレビが「公的発表」よりはるかに先行し、凌駕したことと際立った対照をなしているといえるだろう。

原子力災害において、ジャーナリズムとしての機能をどう維持するか。事故は現在進行形だが、視聴者から今後も問われていくことになるだろう。

震災報道時刻表

時間	主な放送内容	注記（※左記以外に本文に記述した項目など）
11日 14 時	・東日本大震災発生速報・各局報道開始	
15 時	・津波第一波観測情報・津波映像放送開始	・テレビ東京で株や為替の情報を報道
16 時	・孤立者・死亡者・東北全地域停電・自治体からの避難指示情報の第一報が入る ・福島第一原発で非常用ディーゼル発電機の一部が使えなくなり、東京電力が国に「10条通報」を行ったと報道	
17 時	・気象庁、マグニチュード 8.4 から 8.8 に修正。「東北地方太平洋沖地震」と命名 ・東京電力が 17 時に原子力安全保安院に緊急事態を知らせる通報を行ったが外部への影響はないと報道	
18 時	・都市部自治体など帰宅困難者対策依頼情報 ・首都圏の帰宅困難者の報道始まる	・テレビ朝日で「宮城県女川町が壊滅に近い被害」と報じる
19 時	・枝野官房長官会見内で「原子力緊急事態宣言」を行ったことを発表	
20 時	・大船渡市、八戸市など東北地域の避難所から中継が始まる	・NHK で「壊滅的被害」という表現が使われ始める
21 時	・枝野官房長官会見内で福島第一原発の半径3キロ以内の住民は避難、3～10 キロの住民は屋内退避との指示を明らかにする	・NHK、Ustream とニコニコ動画で総合テレビの同時再送信を開始
22 時	・仙台市若林区荒浜で 200 人から 300 人の遺体が発見されているとの情報が入る ・自衛隊ヘリによる孤立者救出開始の第一報	
23 時	・宮城県気仙沼市で大規模火災発生の第一報。陸上自衛隊の撮影した上空からの映像が入る	・フジテレビで 22 時半ごろの仙台市若林区荒浜の映像放送
12日 0 時	・福島県白河市で土砂崩れが発生し中継が開始される	
1 時	・福島県南相馬市で 1,800 世帯が壊滅状態との情報が入る	
2 時	・福島第一原発 1 号機格納容器内の圧力上昇と速報テロップ。容器内の空気を外部に放出するか検討中と報道	・NHK で死亡が確認された人の名前が放送され始める
3 時	・3 時 12 分茨城、千葉に緊急地震速報 ・3 時 59 分長野県北部で震度 6 強の地震が発生	・テレビ東京が番組放送を一旦終了し、テロップ情報のみに切り替える
4 時	・4 時 32 分関東、東北、伊豆諸島、新潟、北陸、甲信、静岡に緊急地震速報 ・長野県北部で発生した地震についての解説、長野県と新潟県のスタジオからもニュースが入り始める	
5 時	・陸前高田市、仙台市若林区、南相馬市から中継が入り始める ・菅首相が被災地の視察を行うと中継が入る	
6 時	・福島県相馬市、南相馬市、宮城県気仙沼市の上空から中継が始まり広範囲で壊滅的被害であると伝えられる ・福島第一原発 1 号機の中央制御室で放射線の値が上昇。避難指示の範囲が 10 キロに拡大される ・茨城県東海村の火災のヘリ中継が始まる	・テレビ東京がニュースを再開 ・TBS が中継で避難者にインタビュー
7 時	・宮城県南三陸町、亘理町、岩沼市の上空から孤立した住民が救助を求める様子が中継される ・宮城県気仙沼市で 1,700 人から 1,800 人孤立状態。宮城県女川町壊滅状態、宮城県亘理町で 9,000 人が孤立など甚大な被害の情報が続々と伝えられる	
8 時	・宮城県山元町の上空、仙台市若林区から自衛隊による救助の様子が中継される ・長野県栄村の上空からヘリ中継が始まる	
9 時	・仙台市宮城野区、福島県南相馬市からの中継で避難所で食料や水など物資が足りなくなっていると情報が入り始める ・茨城県で鹿行大橋が崩落しヘリ中継が行われる	
10 時	・福島県南相馬市、岩手県陸前高田市など壊滅状態と報じられていた地域内の被害状況をリポートした VTR が入り始める	
11 時	・宮城県警、行方不明相談電話を開設 ・岩手県と福島県で死亡が確認された人の名前が表示され読み上げられ始める	・TBS が避難所内から中継を行い必要な物資についてインタビュー
12 時	・岩手県住田町、岩手県大槌町と連絡が取れないとの情報 ・自衛隊派遣 5 万人に増員するとの情報 ・福島第一原発、燃料棒が最大 90cm 露出との情報	
13 時	・南相馬市、陸前高田市でヘリで救助が行われている様子を中継	
14 時	・福島第一原発でセシウムが検出される。炉心の燃料が溶け出た可能性があると報道	
15 時	・東京電力が「計画停電」を実施する可能性が伝えられる ・福島第一原発でベント作業が行われ、効果があったと伝えられる	・日本テレビがヘリでの救助の様子を約 30 分継続して中継（・15 時 36 分、福島第一原発 1 号機で水素爆発発生）
16 時	・福島第一原発で「爆発音」「白い煙」「けが人」の一報	・日本テレビで福島中央テレビがとらえた「爆発の瞬間」映像を放送